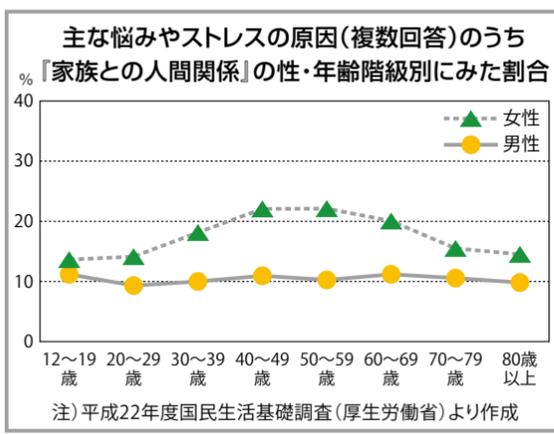




## 妻を苦しめる 夫の何気ない言動

夫の言動や態度がストレスとなり、妻が体調不良をきたす——。そんな症状を表す現象を、石蔵文信さん（医師・大阪樟蔭女子大学教授）は「夫源病」という言葉で表しています。確立した病名・病気ではなく、一種の病理現象としてとらえています。

石蔵さんによると、夫が定年退職という転機を迎えた頃が危険だとしています。夫が四六時中家にいると、それまで妻が自分のペースでやっていた家事や外出に口うるさく干渉しがちです。こうして、夫は妻にストレスを与え、妻は体調を崩していきます。症状としては、めまいや耳鳴り、のぼせや不眠など、更年期障害と重なる症状が挙げられています。



女性のほうが家族関係に悩んでいる人が多いね。



## 性別役割を見直そう

石蔵さんによると、「夫源病」は、良妻賢母タイプの人がなりやすいとされており、男性だけが原因ではなく女性自身の性格にも原因があるそうです。

「女なら」「女だから」「女のくせに」と言われ続けてきた女性は、無意識のうち「女は控えめ」「女は内に」などの姿勢や態度をとってしまいがちです。

そのような女性は、自分を男性よりも下に置き、自尊心を低下させたり、自分の意見や主張を自ら押さえつける傾向があると言われています。

「男らしく」「女らしく」といわれて苦しんだり、夫源病にならないためには、男性の役割、女性の役割を見直して、お互いを尊重し、コミュニケーションを取ることが大切なのではないでしょうか。

若いうちからお互いを尊重して話し合うことが大切です!



## 女性へ こんなことはありませんか?

- 1 いつも夫の顔をうかがっている。
- 2 夫が毎日家にいるとストレスがたまる。
- 3 自分のための時間がない。
- 4 夫に干渉されていると感じる。
- 5 尽くすタイプ。

## 和光市男女共同参画推進審議会会長



諸橋 泰樹(もろはし たいき)  
フェリス女学院大学教授  
専攻はマスコミ学、女性学

## 諸橋泰樹さんから ~現状とアドバイス~

夫が家にいて何もしないことがストレス!?

住生活・デザイン研究所が平成23年に行った、既婚男女55歳から65歳対象の調査に、興味深い結果があります。これからの不安や心配ごとについて尋ねたところ、妻と夫とで極端に差がみられたのが、「配偶者の在宅時間がこれまでよりも長くなること」と「家事の分担や協力ができるか」でした。

どちらも妻の側の不安・心配ごとであることは言うまでもありません。定年間の中高年夫婦において、妻にとっては夫がストレスの元になっていることが示唆されます。

### グローバルスタンダードから外れた日本

なぜそんなにストレスなのでしょう? 欧米諸国では夫・父親の家事・育児時間が軒並み3時間前後であるのに対して、総務省によると、日本の男性はわずか1時間。家事や育児は女性の役割とばかりにそのほとんどをやっているからです。

いや男性たちは、その分外で働いているのだと言つてでしょうが、今や外で働いているのは女性も同じです。女性も男性も働き、家事・育児をシェアするというのが当たり前。ところが家事のスキルもそういう発想もない夫が、定年後これから20年以上もそばにいます。

ああ、妻と夫のこのすれ違い

住環境研究所が平成19年に行った55歳以上の夫婦調査によると、定年後、妻が夫に求めることの1位は「自分のことは一人でできるように」、2位は「趣味を持ち、地域や友人との交流を」でした。

妻が夫に対して自立を望んでいるのに対して、一方、夫が妻に求めることの1位は、「健康で元気でいてほしい」でした。これは妻への「気づかい」であることは間違いありませんが、逆に、いつまでも「自分の世話をしてほしい」という、自立の消極的拒否とも取れますね。

### 男性の自立が女性をストレスから救う

「男性という病」が、「妻の病」の原因となる——。もちろん、ここで「病」というのは、医学的な「病気」と言つよりも、社会臨床的な「病理」「症候群」といったような意味でしょう。

この「不幸」からお互い抜け出すためにはどのような処方箋が必要か。答えは簡単です。賃金が支払われる労働と、家事・育児などの支払われない労働は女性男性がかわりなく必要なことであり、互いにシェアするという、当たり前のことを認識し実践すればいいのです。夫の自立は妻をゴキゲンにし、その妻を見て夫もゴキゲンになることではしょう。

## 編集後記

### 和光市男女共同参画アドバイザー

男女共同参画社会は男性にとっても生きやすい社会ですね。(西山千恵子・青山学院大学非常勤講師)

### 男女共同参画わこうプラン推進委員

2ページにまとめるには、難しいテーマでした。(大河内茂美)

我が家も夫婦で、様々話し合っていて生きていきたいです。(神保裕世)

新しい事を知りいろいろな人の考えを聞き、いい経験になりました。(堤美希)

『おるご〜る』へのご意見・ご感想等ありましたら、人権文化課までお寄せください。  
電話:048-424-9088 FAX:048-464-1234 Mail:a0400@city.wako.lg.jp

ご意見・ご感想をお寄せいただいた方に『わこうさんグッズ』をプレゼントいたします。(先着15名)

